



# 活力ある秋田 Vol. 47

## 高齢化社会のライフモデルを 秋田で!

「秋田市観光クチコミ大使」日本銀行金融研究所 参事役 か い ふみ お 甲 斐 文 朗 氏

東京に転勤になり、早1年半が過ぎました。秋田では厳しい冬が続いているようですが、皆様お元気でお過ごしでしょうか。本稿では、秋田で暮らした一個人として、どうしたら人口減少の続く秋田に人が集まり、経済的に発展していけるかに関連して思うところを書いてみたいと思います。

往復2時間の通勤をこなしながら、慌しく仕事に追われる東京の生活に戻ってみて、改めて感じるのは、一人当たり県民所得といった経済指標では語ることの出来ない秋田の暮らしの豊かさです。秋田の皆様にはピンとこないことかもしれませんが、自然に親しみながら人間らしさを回復したいと思う気持ちが少しでもある人にとって、秋田のこの豊かさは大変価値あるものなのです。また、子供達にとっても、東京ではなかなか経験できないことに数多く触れることができる魅力的な地域です。

秋田での2年半強の間、家族とともに温泉には精力的に回りました。夏祭りのシーズンには、娘達も参加した竿燈まつりをはじめ、大曲の花火、西馬音内の盆踊りなどを堪能しました。雄和の田園で見たホタルの幻想的な光も忘れることができます。また冬にはスキーやスケートに娘達を毎週通わせることができましたし、横手のかまくら、湯沢の犬っこまつり、上桧木内の紙風船など小正月のお祭りも楽しむことができました。食についても、きりたんぼ鍋は勿論のこと、稲庭うどんはどうどん打ちの体験付で本場で味わうことができましたし、比内地鶏の親子丼、男鹿の石焼鍋、種類豊富な山菜の数々など忘れることができます。

色々挙げましたが、これらは私が経験した秋田の魅力のほんの一部に過ぎません。それどころか、秋田には体験できず残念に思うものの方がはるかに多いのです。食に恵まれ、国指定の重要無形文化財が全国一と文化面でも誇れるものが多い

県だけのことはあります。

これだけ多くの魅力を短期の立ち寄り型の旅行だけで理解することは不可能でしょう。秋田の良さを知ってもらうには、秋田市などの交通の便利な場所に最低でも数ヶ月滞在し、そこを基地に全県に広がる秋田の魅力を順次味わってもらえるようにするのがよいように思えます。

私の友人、知人達を見渡してみると、故郷を持たない人が大勢います。祖父などの世代に東京に出てきた人達にとって帰れる故郷はもうないので、彼らの中には、そろそろ定年が近づき、東京暮らしの中でやりそこなったことを元気なうちに色々やっておきたいと思う人が大勢います。彼らに私のような転勤族が経験した秋田を味あわせてあげられないのでしょうか。永住は無理でも数ヶ月から数年の滞在が可能なように体制を整え、孫達にも地方の暮らしを体験させる、そんなライフモデルを提供してみてもどうでしょうか。喜んで秋田を訪ねてくる友人は決して少なくないと思います。

デフレが長期化する日本にとっては、金融緩和とともに成長力の強化が大切です。その成長には需要の拡大が必須ですが、高齢化社会ということでは全国の一歩も二歩も先を行く秋田で高齢者にとって豊かで魅力的な暮らしを確立し、それを求めて人が集まるような工夫をしてみてもどうでしょうか。そして、集まった人々の暮らしを食、エネルギーなど秋田に比較優位がある産業で支えていくことができれば、地域のライフモデルをビジネスモデルに繋げていくチャンスも広がっていくように思えるのですが、皆様、如何でしょうか。

### ■略歴

1983年 4月	日本銀行入行
2008年 10月	日本銀行秋田支店長
2011年 6月	日本銀行金融研究所参事役